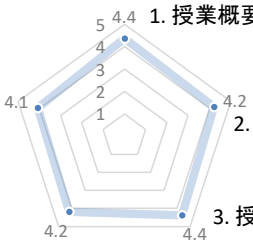
科目コード: 0100　　科目名 1年 教養科目　　回答者数: 333 名

設問Ⅰ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	授業概要(シラバス)に沿って授業が行われた。	171	117	42	2	1	4.4
(2)	授業の説明は分かりやすかった。	157	111	48	11	6	4.2
(3)	授業に対する教員の熱意を感じた。	186	97	42	5	3	4.4
(4)	質疑や課題に対するフィードバックがあった。	151	103	71	6	2	4.2
(5)	この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った。	130	114	74	12	3	4.1

総平均	4.2

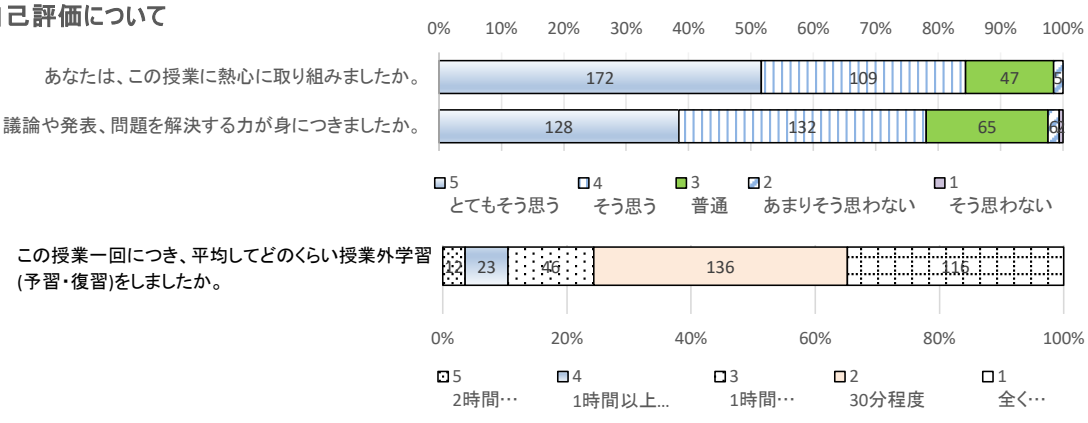
1.授業について ～ 設問 の平均値比較 ～



1. 授業概要(シラバス)に沿って授業が行われた。
2. 授業の説明は判りやすかった。
3. 授業に対する教員の熱意を感じた。
4. 質疑や課題に対するフィーバックがあった。
5. この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った。

設問Ⅱ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	あなたは、この授業に熱心に取り組みましたか。	172	109	47	5	0	4.3
(2)	議論や発表、問題を解決する力が身につきましたか。	128	132	65	6	2	4.1
	項目	5 2時間以上	4 1時間以上2時間未満	3 1時間未満	2 30分程度	1 全くしていない	平均
(3)	この授業1回につき、平均してどのくらい授業時間外学習(予習・復習)をしましたか。	12	23	46	136	116	2.0

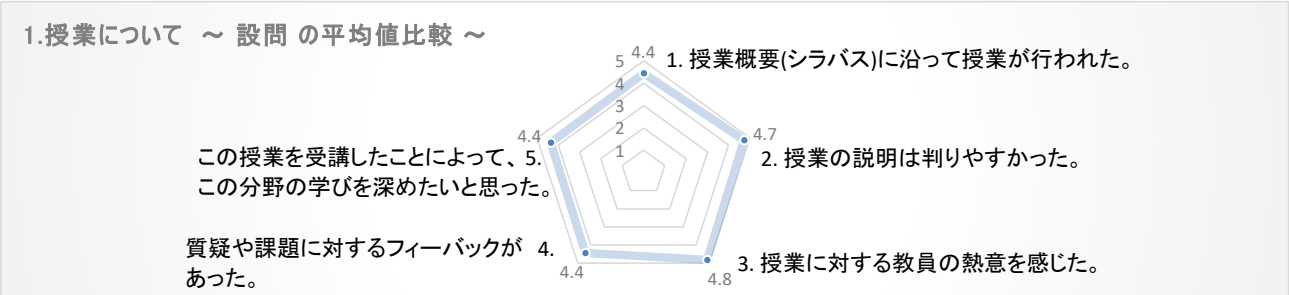
2.学習に対する自己評価について



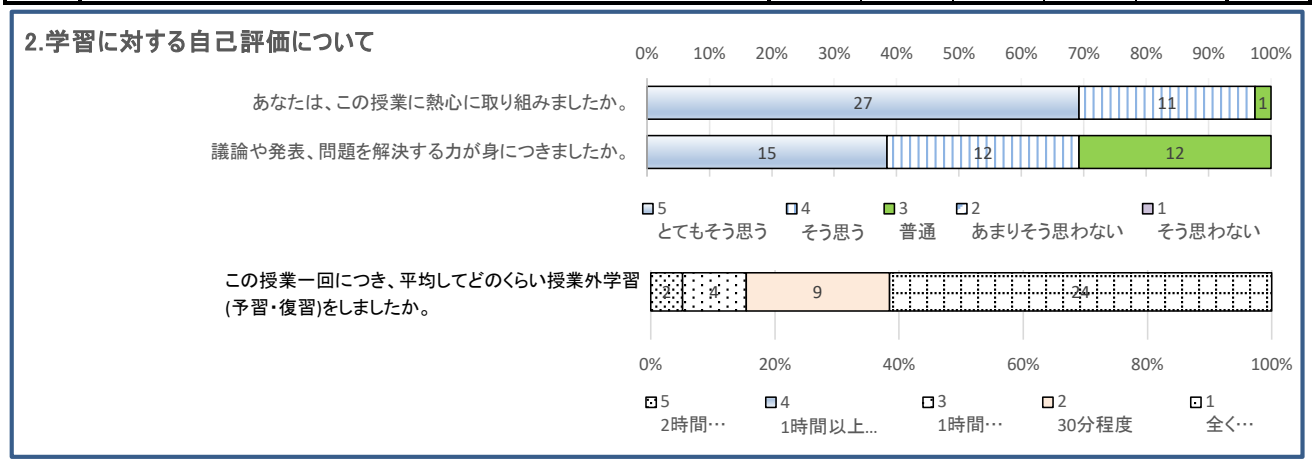
科目コード: 0101　　科目名 健康・スポーツⅠ　　回答者数: 39 名

学科・学年: 健1年 授業形態: 実技　　担当者 古木竜太

設問Ⅰ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	授業概要(シラバス)に沿って授業が行われた。	22	12	5	0	0	4.4
(2)	授業の説明は分かりやすかった。	29	9	1	0	0	4.7
(3)	授業に対する教員の熱意を感じた。	33	5	1	0	0	4.8
(4)	質疑や課題に対するフィードバックがあった。	23	12	3	0	1	4.4
(5)	この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った。	19	15	5	0	0	4.4
					総平均		4.6



設問Ⅱ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	あなたは、この授業に熱心に取り組みましたか。	27	11	1	0	0	4.7
(2)	議論や発表、問題を解決する力が身につきましたか。	15	12	12	0	0	4.1
	項目	5 2時間以上	4 1時間以上2時間未満	3 1時間未満	2 30分程度	1 全くしていない	平均
(3)	この授業1回につき、平均してどのくらい授業時間外学習(予習・復習)をしましたか。	2	0	4	9	24	1.6



アンケートに対する教員所見

①現状(アンケート結果に対する考察)

本授業は、①「スポーツ各種の基本的なルールを理解して基本動作を修得し、ゲームを実践することができる。」、②「誰とでも良好な人間関係を構築しながら、チームパフォーマンスが高まる方法を考え、実行することができる。」、③「チームスポーツにおけるコミュニケーションについて説明できる。」ことを到達目標として、ボッチャ、ポートボール、バレーボール、卓球、バドミントンを行った。総平均は4.6であり、概ね高い評価と得た。学生はクラスメイトと協力して積極的に各スポーツに取り組んでいた。自由記述では、「とても楽しかった。クラスの人と話す機会が増えてスポーツで仲良くなれるのはいいと感じた。」「先生の説明もわかりやすくて楽しく授業が受けられた。」や、「サーブで始まるスポーツはサーブ練も入れて欲しいと思いました。それ以外はとても楽しく学べたと思います。」という意見があった。自由記述の意見も次年度の授業に反映させたい。

②課題と展望(授業改善方策)

今年度は猛暑に見舞われ、「熱中症警戒アラート」が発令された日が連日あった。そのため、7月からの授業(第12～15回)の授業は全て屋内(講堂または001教室)で行い、冷房で室温調整を留意しながら授業を進めた。授業中、熱中症の症状を訴える学生はいなかった一方で、シラバスに準して授業を進めることができなかった(バドミントンを実施しなかった)。授業日程の調整が可能であれば、7月の授業は一時中断し、残りの授業は後期から再開してはどうか。気象条件に配慮した授業日程を検討する必要がある。

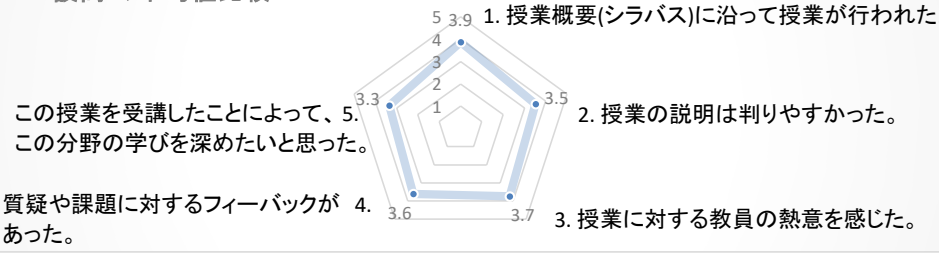
科目コード: 0102　　科目名 英語ＩＡ　　回答者数: 23 名

学科・学年: 幼1年 授業形態: 演習　　担当者 ロス　マシュー　デビド　ケシー

設問Ⅰ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	授業概要(シラバス)に沿って授業が行われた。	4	13	5	1	0	3.9
(2)	授業の説明は分かりやすかった。	6	7	5	3	2	3.5
(3)	授業に対する教員の熱意を感じた。	6	8	7	1	1	3.7
(4)	質疑や課題に対するフィードバックがあった。	5	7	8	3	0	3.6
(5)	この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った。	4	5	9	5	0	3.3

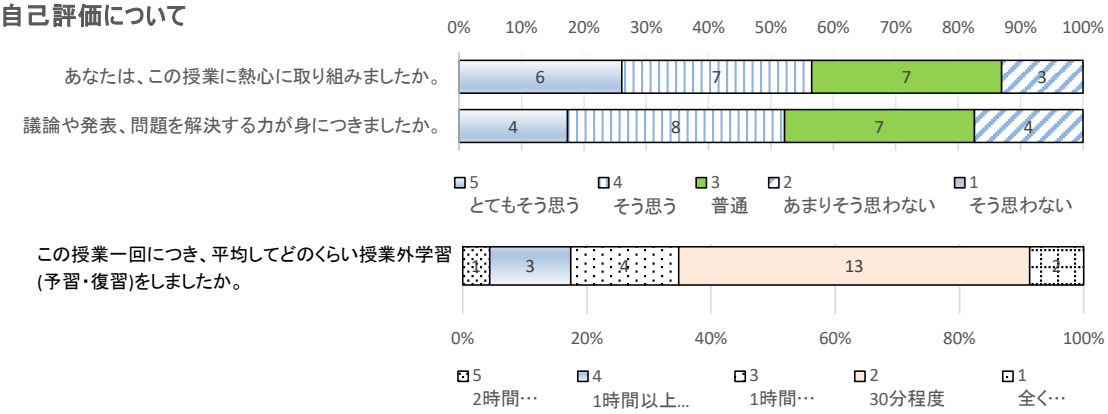
総平均	3.6

1.授業について ～ 設問 の平均値比較 ～



設問Ⅱ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	あなたは、この授業に熱心に取り組みましたか。	6	7	7	3	0	3.7
(2)	議論や発表、問題を解決する力が身につきましたか。	4	8	7	4	0	3.5
	項目	5 2時間以上	4 1時間以上2時間未満	3 1時間未満	2 30分程度	1 全くしていない	平均
(3)	この授業1回につき、平均してどのくらい授業時間外学習(予習・復習)をしましたか。	1	3	4	13	2	2.5

2.学習に対する自己評価について



アンケートに対する教員所見

①現状(アンケート結果に対する考察)

すべての評価基準において、かなり高い評価を得ていますが、常に改善の余地はあると思います。もし私が高等教育特有の厳しさで学生に接していたら、学生たちは私をこれほど高く評価しただろうか。つまり、私は授業の最後の数週間、欠席した学生に課題を提出させ、追試を受けるよう学生に言った。このようなことをするのは、ほとんどの環境では非常に珍しいことだが、もし私がそれをしなかったら、学生が宿題の提出や小テストの追試をせず、20%近くの学生を落第させていただろう。これが私の焦点である。(原文英文)

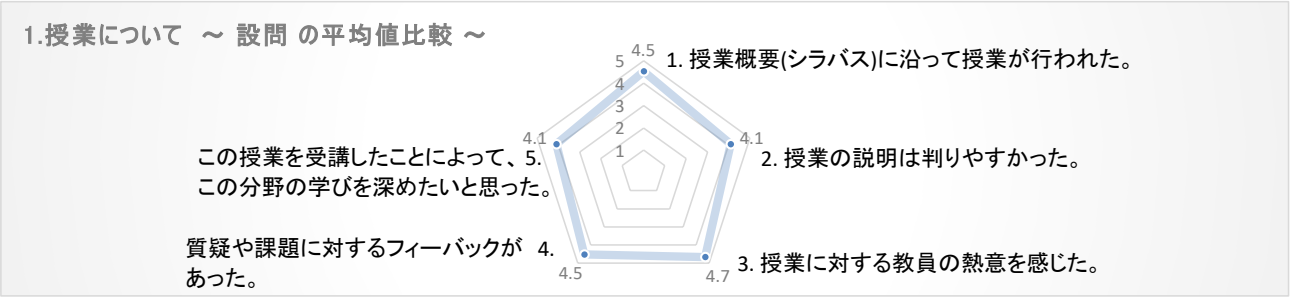
②課題と展望(授業改善方策)

私は何週間も前から、授業中に何度も学生に私とコミュニケーションが必要であることを伝え、Teamsで何度もメッセージを送ったが、学生が提出物を出さないという問題があった。生徒が私とのコミュニケーションに肯定的な印象を抱いていても、ギャップがあることを示している。指導者がアドバイザーとしての役割もするという学生の期待は、かなり浸透しているようだ。この役割と責任の違いは決定的なものなので、私はこれを重要な異文化理解のポイントだと考えている。そのため、学生が期限を過ぎるたびに私が個人的に介入することなく、確実に期限を守れるよう、授業中にさらなる措置を講じなければならないだろう。(原文英文)

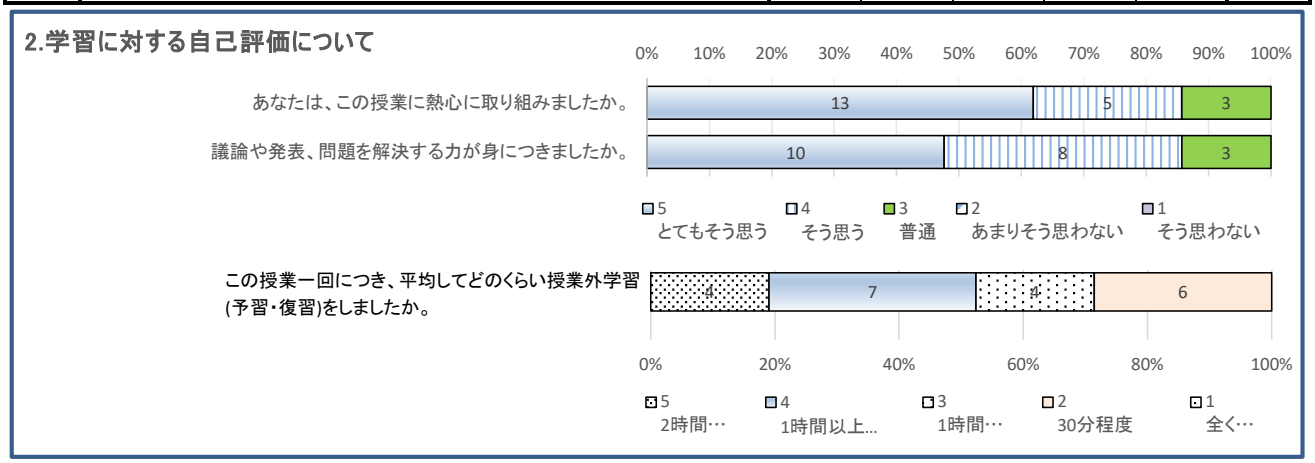
科目コード: 0103　　科目名 英語ＩA　　回答者数: 21 名

学科・学年: 健1年 授業形態: 演習　　担当者 ロス　マシュー　デビド　ケシー

設問Ⅰ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	授業概要(シラバス)に沿って授業が行われた。	13	6	2	0	0	4.5
(2)	授業の説明は分かりやすかった。	8	9	3	0	1	4.1
(3)	授業に対する教員の熱意を感じた。	16	3	2	0	0	4.7
(4)	質疑や課題に対するフィードバックがあった。	14	4	3	0	0	4.5
(5)	この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った。	10	6	3	1	1	4.1
					総平均		4.4



設問Ⅱ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	あなたは、この授業に熱心に取り組みましたか。	13	5	3	0	0	4.5
(2)	議論や発表、問題を解決する力が身につきましたか。	10	8	3	0	0	4.3
	項目	5 2時間以上	4 1時間以上2時間未満	3 1時間未満	2 30分程度	1 全くしていない	平均
(3)	この授業1回につき、平均してどのくらい授業時間外学習(予習・復習)をしましたか。	4	7	4	6	0	3.4



アンケートに対する教員所見

①現状(アンケート結果に対する考察)

すべての評価基準において、かなり高い評価を得ていますが、常に改善の余地はあると思います。もし私が高等教育特有の厳しさで学生に接していたら、学生たちは私をこれほど高く評価しただろうか。つまり、私は授業の最後の数週間、欠席した学生に課題を提出させ、追試を受けるよう学生に言った。このようなことをするのは、ほとんどの環境では非常に珍しいことだが、もし私がそれをしなかったら、学生が宿題の提出や小テストの追試をせず、20%近くの学生を落第させていただろう。これが私の焦点である。(原文英文)

②課題と展望(授業改善方策)

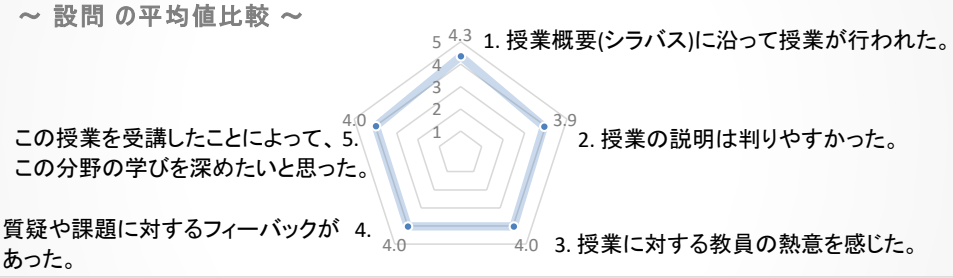
私は何週間も前から、授業中に何度も学生に私とコミュニケーションが必要であることを伝え、Teamsで何度もメッセージを送ったが、学生が提出物を出さないという問題があった。生徒が私とのコミュニケーションに肯定的な印象を抱いていても、ギャップがあることを示している。指導者がアドバイザーとしての役割もするという学生の期待は、かなり浸透しているようだ。この役割と責任の違いは決定的なものなので、私はこれを重要な異文化理解のポイントだと考えている。そのため、学生が期限を過ぎるたびに私が個人的に介入することなく、確実に期限を守れるよう、授業中にさらなる措置を講じなければならないだろう。(原文英文)

科目コード: 0104　　科目名 情報処理Ⅰ　　回答者数: 49 名

学科・学年: 幼1年 授業形態: 実習　　担当者 中平浩介

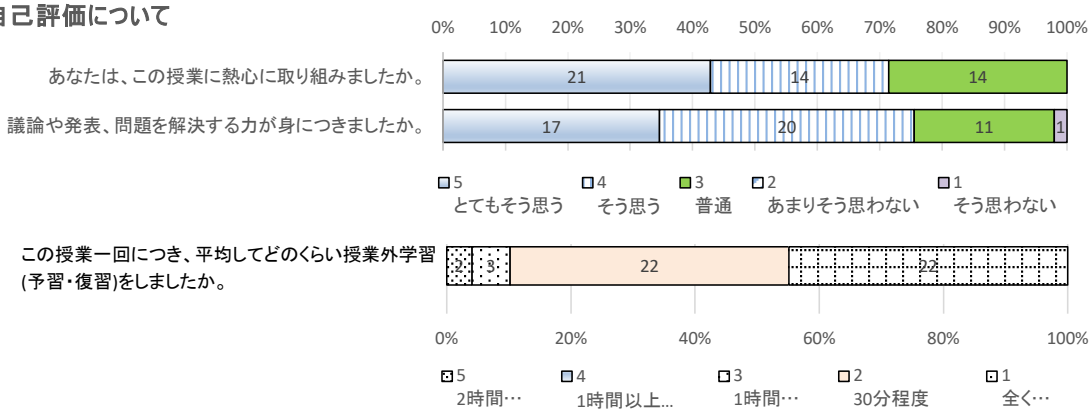
設問Ⅰ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	授業概要(シラバス)に沿って授業が行われた。	23	20	6	0	0	4.3
(2)	授業の説明は分かりやすかった。	18	14	13	3	1	3.9
(3)	授業に対する教員の熱意を感じた。	19	15	13	1	1	4.0
(4)	質疑や課題に対するフィードバックがあった。	19	13	16	1	0	4.0
(5)	この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った。	16	17	15	1	0	4.0
					総平均		4.1

1.授業について ～ 設問 の平均値比較 ～



設問Ⅱ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	あなたは、この授業に熱心に取り組みましたか。	21	14	14	0	0	4.1
(2)	議論や発表、問題を解決する力が身につきましたか。	17	20	11	0	1	4.1
	項目	5 2時間以上	4 1時間以上2時間未満	3 1時間未満	2 30分程度	1 全くしていない	平均
(3)	この授業1回につき、平均してどのくらい授業時間外学習(予習・復習)をしましたか。	2	0	3	22	22	1.7

2.学習に対する自己評価について



アンケートに対する教員所見

①現状(アンケート結果に対する考察)

設問1では(1)の「授業概要(シラバス)に沿って授業が行われた」が平均4.3ポイントでもっとも評価が高かった。次に高かったのが、(3)(4)(5)で4．0ポイントであった。総平均が4．1で昨年と比べると、0.3ポイント上がった。この科目ではmicrosoft365に含まれるWord,Excel,PowerPointを中心としているが、これに加えて情報処理ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸを利用して情報セキュリティの知識を身に付けることを目標としている。また授業で使用しているweb教材は授業外での利用も可能であり、PCを苦手に感じている学生にとっても有効であると考えている。

②課題と展望(授業改善方策)

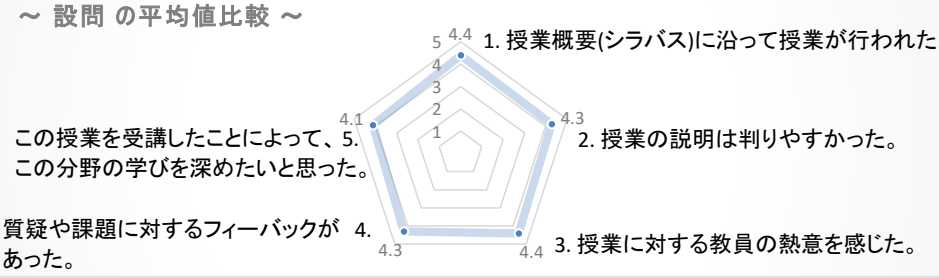
全体の総平均が4.1で比較的高い数字となった。また、授業への取り組みについて、設問Ⅱの(1)では授業に熱心に取り組んだとの回答が平均で4.1あったにも関わらず(3)の授業時間外での学習時間について、全くしていないと回答した学生が22名おり、30分程度と回答した数を加えると44名であった。この数字は昨年と比べると4名ほどの増加であるが、比率でいうとだいたい9割の学生が30分程度の時間外学習以下であることが分かった。苦手とする項目を重点的に学習するためには自己学習が必須であるということを考えると、強く予習復習の必要性を説きたい。

科目コード: 0105　　科目名 情報処理Ⅰ　　回答者数: 61 名

学科・学年: 健1年 授業形態: 実習　　担当者 大野譲太郎

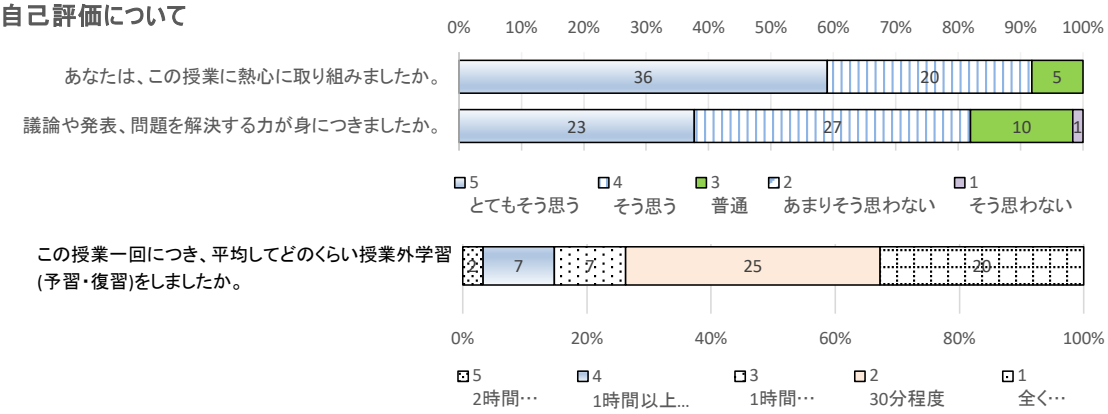
設問Ⅰ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	授業概要(シラバス)に沿って授業が行われた。	30	25	6	0	0	4.4
(2)	授業の説明は分かりやすかった。	29	22	9	0	1	4.3
(3)	授業に対する教員の熱意を感じた。	32	22	7	0	0	4.4
(4)	質疑や課題に対するフィードバックがあった。	29	22	10	0	0	4.3
(5)	この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った。	25	20	14	2	0	4.1
						総平均	4.3

1.授業について ～ 設問 の平均値比較 ～



設問Ⅱ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	あなたは、この授業に熱心に取り組みましたか。	36	20	5	0	0	4.5
(2)	議論や発表、問題を解決する力が身につきましたか。	23	27	10	0	1	4.2
	項目	5 2時間以上	4 1時間以上2時間未満	3 1時間未満	2 30分程度	1 全くしていない	平均
(3)	この授業1回につき、平均してどのくらい授業時間外学習(予習・復習)をしましたか。	2	7	7	25	20	2.1

2.学習に対する自己評価について



アンケートに対する教員所見

①現状(アンケート結果に対する考察)

実務的な科目であるにも関わらず、設問Ⅰの(5)が他の設問Ⅰの項目と比べ低くなっている。また、設問Ⅱの(3)で「1」を選択している学生が回答者全体の三分の一である。商業高校出身等入学時点で既高い情報処理の知識・技能を兼ね備えている学生やパソコン操作に苦手意識がある学生など様々いる中で、設問Ⅱ(1)では「1」、「2」の回答者がいなかった。また、授業を行っての所見として、知識・技能がある学生が苦手な学生に対して温和にアドバイスをする場面や出来い部分を自ら分析する場面が多く見られ、全体的に意欲的な学習をしていた印象である。このことから、学生は協同的かつ意欲的に課題を解決しながら学習する力は備わっているが、それらを実務的な視点に結び付けることができておらず、この分野の学問に対し予見できないことから、結果自己調整学習意欲にも結び付いていないと考察する。

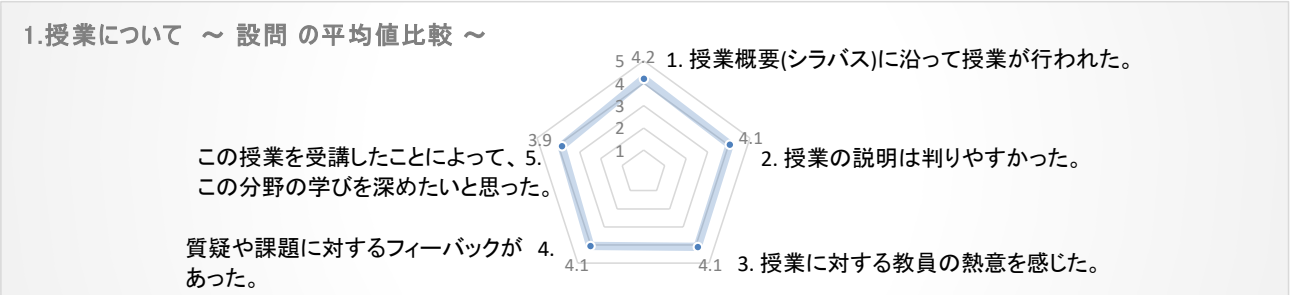
②課題と展望(授業改善方策)

この科目のシラバスにある「授業時間外学習」については、処理速度向上の観点や内容を復習する観点から15時間程度の授業時間外学習が必要である旨を記載しているが、75%は達成していない。また、上記の考察にもある通り、学生には自己調整学習が可能な要素が備わっているが、それらを活かせていないことから、学生の情報処理に対する捉え方を把握出来ていないことが課題と感じた。デジタルネイティブ世代と言われた世代より更に先の世代である学生のICTに対する実情と、ICTの使用が日常的でなかった世代のICTに対する意識の研究を行い、授業改善方策としたい。

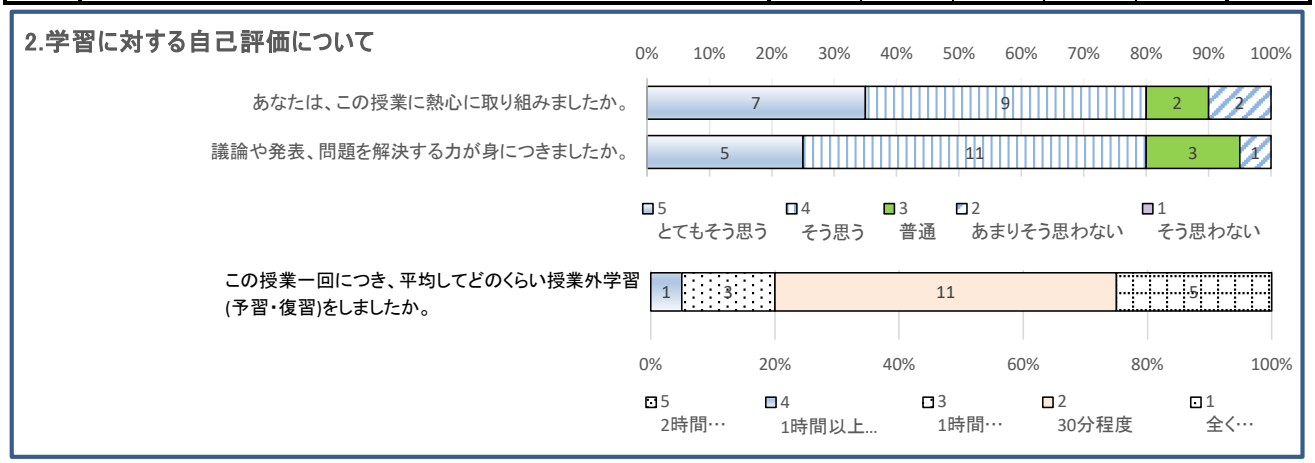
科目コード: 0106　　科目名 日本語と表現　　回答者数: 20 名

学科・学年: 1年生 授業形態: 講義　　担当者 吉野寿一

設問Ⅰ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	授業概要(シラバス)に沿って授業が行われた。	7	10	3	0	0	4.2
(2)	授業の説明は分かりやすかった。	7	9	2	2	0	4.1
(3)	授業に対する教員の熱意を感じた。	7	10	1	2	0	4.1
(4)	質疑や課題に対するフィードバックがあった。	7	8	4	1	0	4.1
(5)	この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った。	6	9	3	0	2	3.9
					総平均		4.1



設問Ⅱ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	あなたは、この授業に熱心に取り組みましたか。	7	9	2	2	0	4.1
(2)	議論や発表、問題を解決する力が身につきましたか。	5	11	3	1	0	4.0
	項目	5 2時間以上	4 1時間以上2時間未満	3 1時間未満	2 30分程度	1 全くしていない	平均
(3)	この授業1回につき、平均してどのくらい授業時間外学習(予習・復習)をしましたか。	0	1	3	11	5	2.0



アンケートに対する教員所見

①現状(アンケート結果に対する考察)

「この授業を受講したことによってこの分野の学びを深めたいと思った」の項目の評価が低いことは、日本語表現の面白さや奥深さを、より分かりやすく身近な問題として意識させる事項を今回以上に提示していく必要性を感じた。また、シラバスを基に講義を展開していることが学生に伝わっていたので、今後も、計画的に講義を行い、学生に日本語の表現技術が定着するように努めたい。

②課題と展望(授業改善方策)

第一回目のオリエンテーションの場でも、シラバスの中でも、本講座で身に付けたい事柄や力を示してはいるものの、定期試験の結果からは、身に付けてほしい事柄の定着が不十分な学生も少なからずいることが伺える。この現状を捉えると、定着を図るための仕掛けを工夫改善していく必要を感じる。

学習内容の定着には予習復習が欠かせないが、現実的には予習復習にかける時間が少ない。学生も様々な活動で忙しいことは分かる。配布資料をファイリングしている学生は比較的学習事項の定着が図られている傾向にある。そこで、講義の中では、具体的にこうしたことを伝えていきたい。

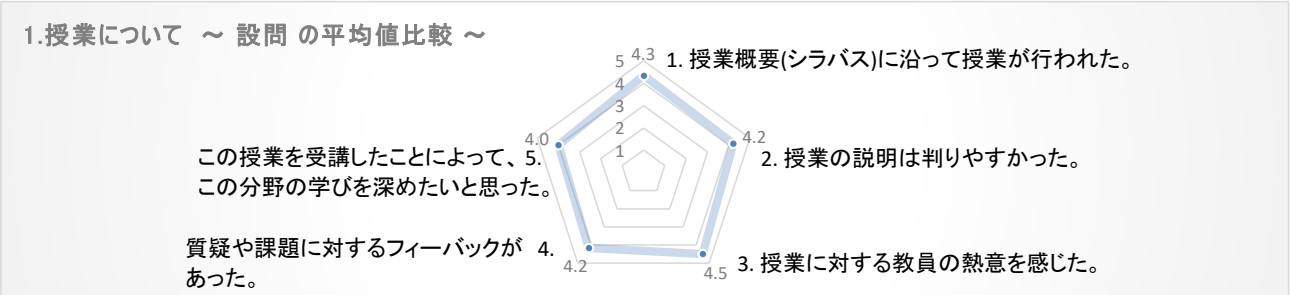
学生の状況を鑑み、学生にとって無理のない範囲で実行していきたい。

kono

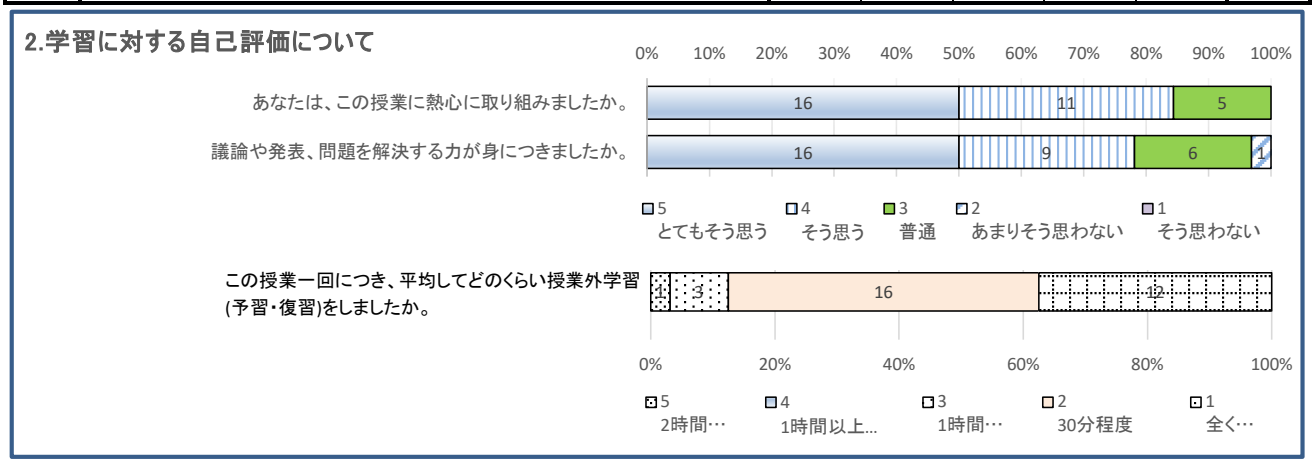
科目コード: 0107　　科目名 コミュニケーション論　　回答者数: 32 名

学科・学年: 1年生 授業形態: 講義　　担当者 永杉徹夫

設問Ⅰ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	授業概要(シラバス)に沿って授業が行われた。	18	8	5	1	0	4.3
(2)	授業の説明は分かりやすかった。	14	12	5	1	0	4.2
(3)	授業に対する教員の熱意を感じた。	20	8	4	0	0	4.5
(4)	質疑や課題に対するフィードバックがあった。	14	10	7	1	0	4.2
(5)	この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った。	14	7	8	3	0	4.0
					総平均		4.2



設問Ⅱ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	あなたは、この授業に熱心に取り組みましたか。	16	11	5	0	0	4.3
(2)	議論や発表、問題を解決する力が身につきましたか。	16	9	6	1	0	4.3
	項目	5 2時間以上	4 1時間以上2時間未満	3 1時間未満	2 30分程度	1 全くしていない	平均
(3)	この授業1回につき、平均してどのくらい授業時間外学習(予習・復習)をしましたか。	1	0	3	16	12	1.8



アンケートに対する教員所見

①現状(アンケート結果に対する考察

本授業に対する評価は、ほとんどの項目で一般教科全体のそれとほぼ同じだった。他の教科、殊に専門教科の真の理解を深めること、さらにその困難に立ち向かうための忍耐の大切さにも目覚めてもらう内容にしたいと思いながらの講義にしたはずが、成果は十分だったとは言えない。他の教科の大切さとともに、さらに生きることの意味深さについても考えのおよぶ授業であればと願っての毎時間だった。が、やはり難しかった。それに如何せん、そのための持ち時間が少ない。そしてその足りなさの中での工夫と努力も、教える側にも足りていなかった。

②課題と展望(授業改善方策)

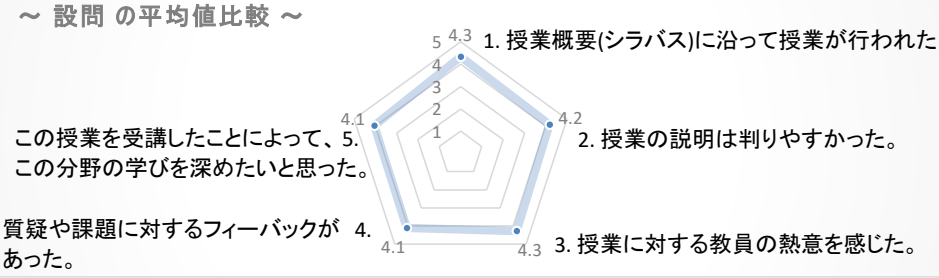
生涯にわたる学習としての教養科目、ことにコミュニケーション能力の練磨はきわめて重要である。それが他の一般教科よりも学びにくい、判りにくいと感じさせてはならない。よりいっそう判りやすい授業にするための方法を手探りしながらの講義だった。今回は学生同士をグループに分けてある問題について考え、授業の中でそのグループとしての意見を集約して発表し合う時間をとりいれた。これは成功したように思うが、さらにこの方法を深め、時間も多くとれればよいと考えている。

科目コード: 0109　　科目名 子どもと発達　　回答者数: 39 名

学科・学年: 1年生 授業形態: 講義　　担当者 中村敏男(他)

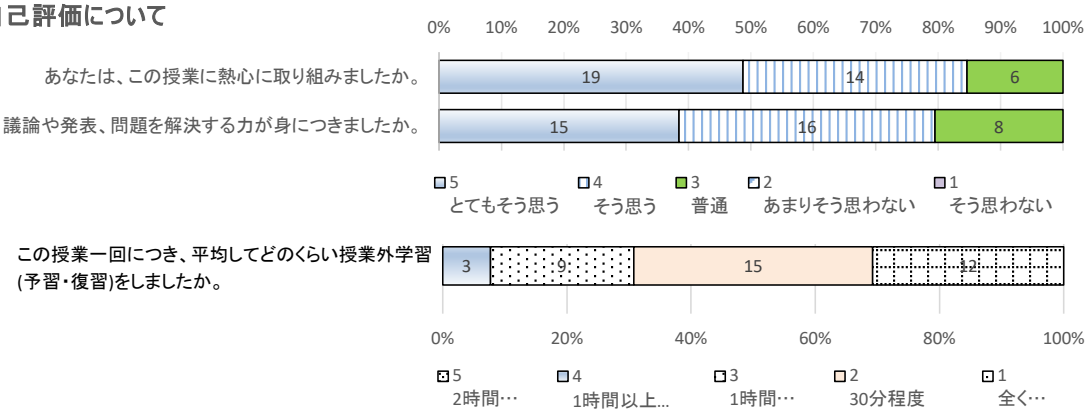
設問Ⅰ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	授業概要(シラバス)に沿って授業が行われた。	21	10	8	0	0	4.3
(2)	授業の説明は分かりやすかった。	16	15	7	1	0	4.2
(3)	授業に対する教員の熱意を感じた。	18	15	5	1	0	4.3
(4)	質疑や課題に対するフィードバックがあった。	15	13	11	0	0	4.1
(5)	この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った。	12	17	10	0	0	4.1
					総平均		4.2

1.授業について ～ 設問 の平均値比較 ～



設問Ⅱ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	あなたは、この授業に熱心に取り組みましたか。	19	14	6	0	0	4.3
(2)	議論や発表、問題を解決する力が身につきましたか。	15	16	8	0	0	4.2
	項目	5 2時間以上	4 1時間以上2時間未満	3 1時間未満	2 30分程度	1 全くしていない	平均
(3)	この授業1回につき、平均してどのくらい授業時間外学習(予習・復習)をしましたか。	0	3	9	15	12	2.1

2.学習に対する自己評価について



アンケートに対する教員所見

①現状(アンケート結果に対する考察)

・4人の教員による授業であるため、一つの授業としてアンケート結果に集約されにくい部分があるのではないだろうか。評価対象としたアンケートについても、4人の授業者の中から2名取り上げてレポートを課したが、レポートの数にやや差があったようだ。科目の特性を考えればやむを得ない部分もあるが、これまで以上に授業者間で情報共有をし、学生の取組の状況を踏まえた授業展開を工夫したい。

②課題と展望(授業改善方策)

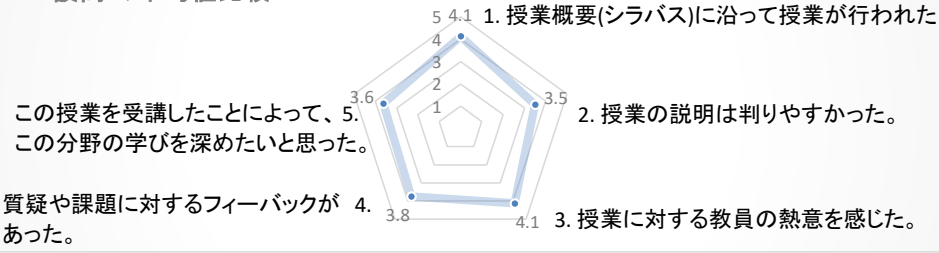
・4人の授業者が2回ずつの授業を展開するため、授業者ごとの時間外学習の課題が他の科目よりも提示しにくい状況がある。共通の課題を提示することが可能かどうかも含めて、時間外学習のあり方を検討する必要がある。

科目コード: 0108　　科目名 健康と栄養　　回答者数: 8 名

学科・学年: 1年生 授業形態: 講義　　担当者 服部 富子

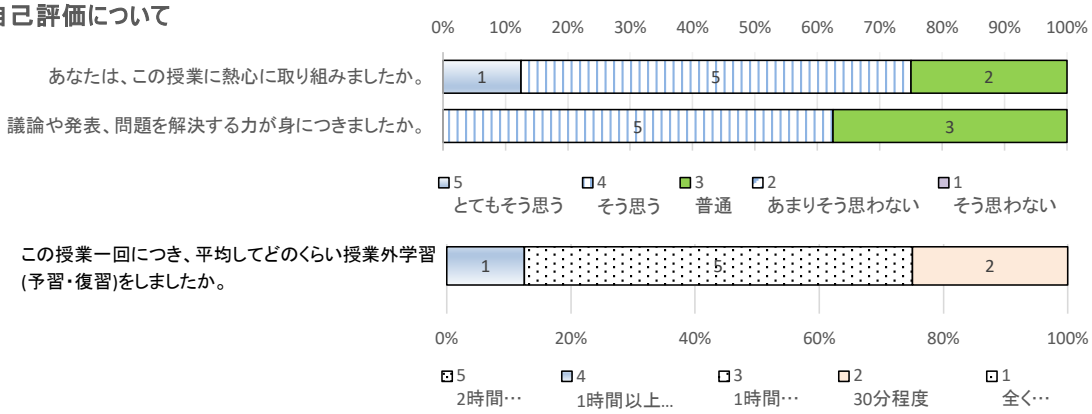
設問Ⅰ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	授業概要(シラバス)に沿って授業が行われた。	2	5	1	0	0	4.1
(2)	授業の説明は分かりやすかった。	1	3	3	1	0	3.5
(3)	授業に対する教員の熱意を感じた。	3	3	2	0	0	4.1
(4)	質疑や課題に対するフィードバックがあった。	1	4	3	0	0	3.8
(5)	この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った。	1	3	4	0	0	3.6
					総平均		3.8

1.授業について ～ 設問 の平均値比較 ～



設問Ⅱ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	あなたは、この授業に熱心に取り組みましたか。	1	5	2	0	0	3.9
(2)	議論や発表、問題を解決する力が身につきましたか。	0	5	3	0	0	3.6
	項目	5 2時間以上	4 1時間以上2時間未満	3 1時間未満	2 30分程度	1 全くしていない	平均
(3)	この授業1回につき、平均してどのくらい授業時間外学習(予習・復習)をしましたか。	0	1	5	2	0	2.9

2.学習に対する自己評価について



アンケートに対する教員所見

①現状(アンケート結果に対する考察)

本科目は、1年生共通選択科目であり、目指す職種も栄養士、調理師、保育士と多岐にわたっている。教科書はなく、各学科各専攻に共通する「健康」、「栄養」に関わる知識や技術に関する事項を選び、プリントを作成し、授業を実施した。シラバスに沿った授業、教員の熱意の項目は4.1ポイントであったが、他の 3項目は 3ポイント台となっていた。試行錯誤しながらの授業展開でもあり、スムーズな流れとなっていなかった点は否めない。

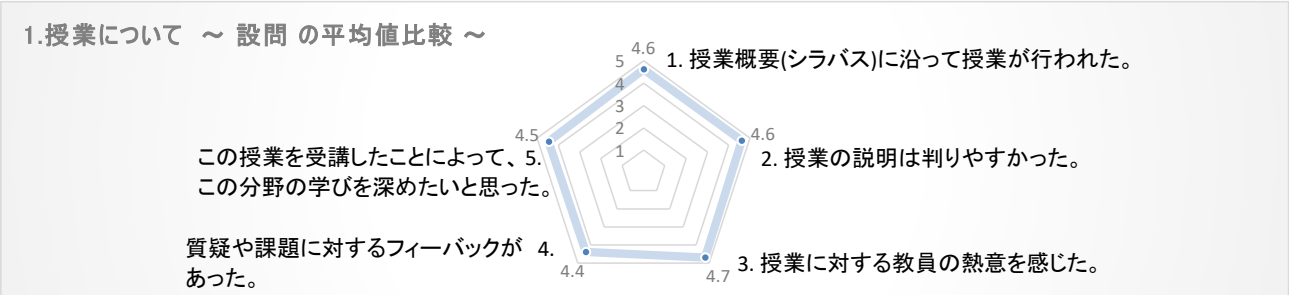
②課題と展望(授業改善方策)

次回の実施に当たっては、取り上げる事項と内容や8回授業における展開の流れを再検討し、取り組みたいと考える。

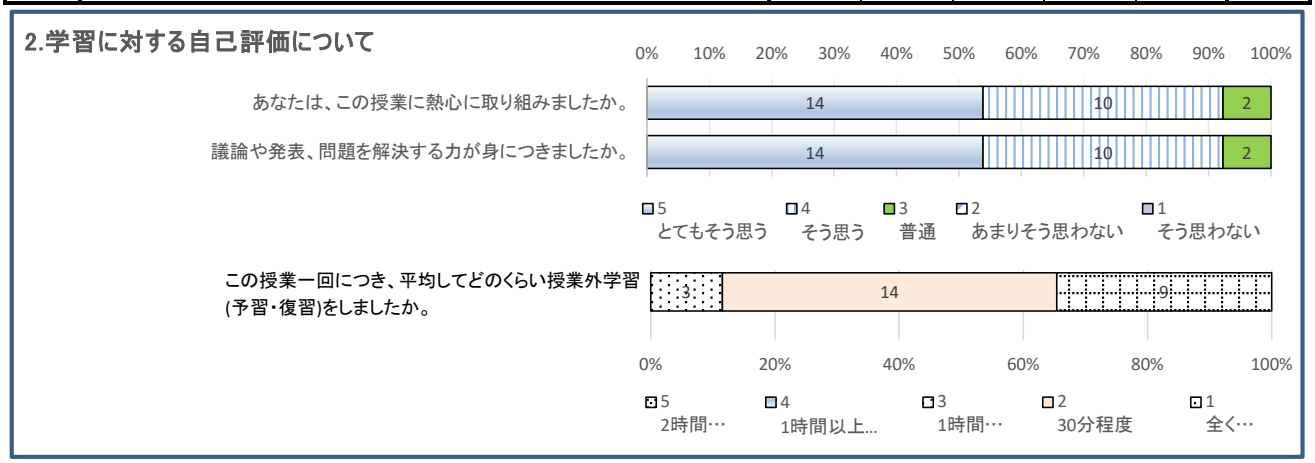
科目コード: 0110　　科目名 ボランティア論　　回答者数: 26 名

学科・学年: 1年生 授業形態: 講義　　担当者 武内道郎

設問Ⅰ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	授業概要(シラバス)に沿って授業が行われた。	17	8	1	0	0	4.6
(2)	授業の説明は分かりやすかった。	16	10	0	0	0	4.6
(3)	授業に対する教員の熱意を感じた。	18	8	0	0	0	4.7
(4)	質疑や課題に対するフィードバックがあった。	13	10	3	0	0	4.4
(5)	この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った。	15	8	3	0	0	4.5
					総平均		4.6



設問Ⅱ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	あなたは、この授業に熱心に取り組みましたか。	14	10	2	0	0	4.5
(2)	議論や発表、問題を解決する力が身につきましたか。	14	10	2	0	0	4.5
	項目	5 2時間以上	4 1時間以上2時間未満	3 1時間未満	2 30分程度	1 全くしていない	平均
(3)	この授業1回につき、平均してどのくらい授業時間外学習(予習・復習)をしましたか。	0	0	3	14	9	1.8



アンケートに対する教員所見

①現状(アンケート結果に対する考察)

28名の履修者である。両学科の学生が混じった木曜日5限目の授業で、4限目が空きコマの学生もあり、欠席する学生もいた。シラバスで予告した内容に基づき、SDGsの視点も加えて、毎回テーマを絞ってA3両面の資料を配布した。8回のみで時間に余裕がなく、講義の場面が多くなったが、毎回、「君たちならどうするか？」といった究極の場面の問いをいくつか設け、グループ協議をさせ、発表させた。また、課題として記述させた。地球規模での大きな話も多く、学生にとっては、身近な話題ではなかったかもしれない。例年に比べ選択者が少なく、周りの学生との協議や、発言の場面も設けたが、和やかな雰囲気で話し合うことができた。次回以降で、回収した課題レポートへのコメント、考え方の部分を資料として配って解説した。

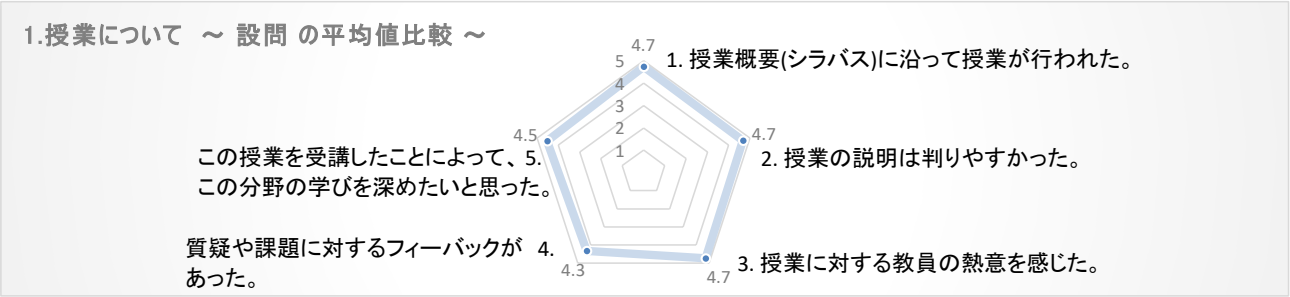
②課題と展望(授業改善方策)

ボランティアに関する基礎知識を踏まえつつ、深く考えさせる時間、意見交換をする時間を確保したいと毎年思うが、徹底して深く考察する時間がなく、深まりにかける内容となっている。毎回の課題レポートでは、ボランティア活動の抱える課題、問題点に対する意見を求めた。周りの学生との協議などの場面もとったが、それらを共有し、学習を深める場面が少なかった。毎年、最終回でアンケート実施し、「ボランティアをやってみたいか」と質問しているが、割合はなかなか増えない。実際の行動に移すまでの壁がある。考査の代わりに実施したのは、地元の様々なボランティア活動の募集内容の調査であった。地元の社会福祉協議会などを訪ねるなどして、足で調べて欲しかったが、ネットの情報をまとめたのみの学生が大半であった。

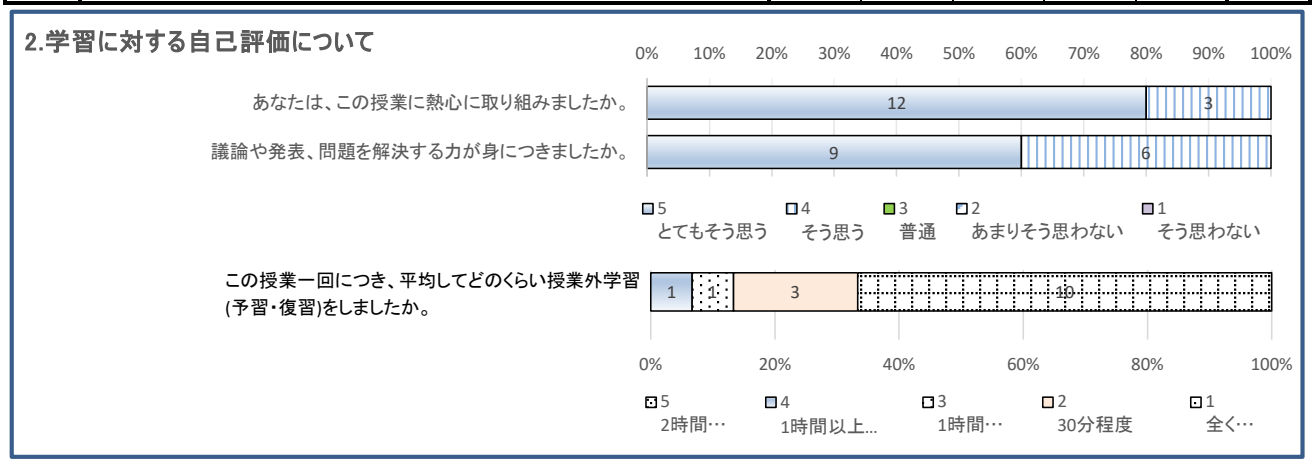
科目コード: 0111　　科目名 生活の科学　　回答者数: 15 名

学科・学年: 1年生 授業形態: 講義　　担当者 落合啓志

設問Ⅰ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	授業概要(シラバス)に沿って授業が行われた。	14	0	0	0	1	4.7
(2)	授業の説明は分かりやすかった。	13	1	0	0	1	4.7
(3)	授業に対する教員の熱意を感じた。	14	0	0	0	1	4.7
(4)	質疑や課題に対するフィードバックがあった。	11	0	3	0	1	4.3
(5)	この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った。	8	7	0	0	0	4.5
					総平均		4.6



設問Ⅱ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	あなたは、この授業に熱心に取り組みましたか。	12	3	0	0	0	4.8
(2)	議論や発表、問題を解決する力が身につきましたか。	9	6	0	0	0	4.6
	項目	5 2時間以上	4 1時間以上2時間未満	3 1時間未満	2 30分程度	1 全くしていない	平均
(3)	この授業1回につき、平均してどのくらい授業時間外学習(予習・復習)をしましたか。	0	1	1	3	10	1.5



アンケートに対する教員所見

①現状(アンケート結果に対する考察)

過去3年間のデータを比較すると、「5 とてもそう思う」を回答した学生の割合が最も高かった。受講したほとんどの学生にとってよい学びが得られたと推察される。一方、1-(4)の「質疑や課題に対するフィードバック」の項目が相対的に低い結果となり、改善すべき課題と考えられる。

②課題と展望(授業改善方策)

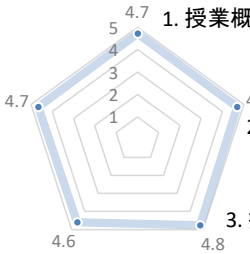
1-(4)の設問のうち「質疑」については授業中や授業終了後に質疑の時間をこれまで以上に設けること、「課題に対するフィードバック」についてはポートフォリオの返信内容をさらに丁寧に書き込んでいくことに努めたい。また、すべての学生に満足してもらえるような授業にするため、一人一人の学生の隠れた思いにも想像を馳せて、可能な限り寄り添った指導ができるようにしていきたい。

科目コード: 0200　　科目名 2年 教養科目　　回答者数: 96 名

設問Ⅰ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	授業概要(シラバス)に沿って授業が行われた。	72	21	3	0	0	4.7
(2)	授業の説明は分かりやすかった。	70	22	4	0	0	4.7
(3)	授業に対する教員の熱意を感じた。	77	15	4	0	0	4.8
(4)	質疑や課題に対するフィードバックがあった。	67	19	9	1	0	4.6
(5)	この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った。	69	21	6	0	0	4.7

総平均	4.7

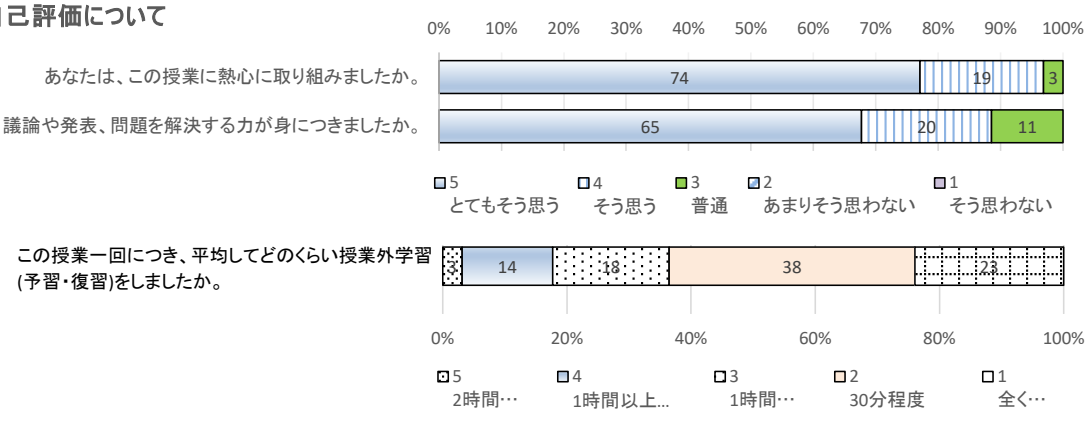
1.授業について ～ 設問 の平均値比較 ～



1. 授業概要(シラバス)に沿って授業が行われた。
2. 授業の説明は判りやすかった。
3. 授業に対する教員の熱意を感じた。
4. 質疑や課題に対するフィーバックがあった。
5. この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った。

設問Ⅱ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	あなたは、この授業に熱心に取り組みましたか。	74	19	3	0	0	4.7
(2)	議論や発表、問題を解決する力が身につきましたか。	65	20	11	0	0	4.6
	項目	5 2時間以上	4 1時間以上2時間未満	3 1時間未満	2 30分程度	1 全くしていない	平均
(3)	この授業1回につき、平均してどのくらい授業時間外学習(予習・復習)をしましたか。	3	14	18	38	23	2.3

2.学習に対する自己評価について

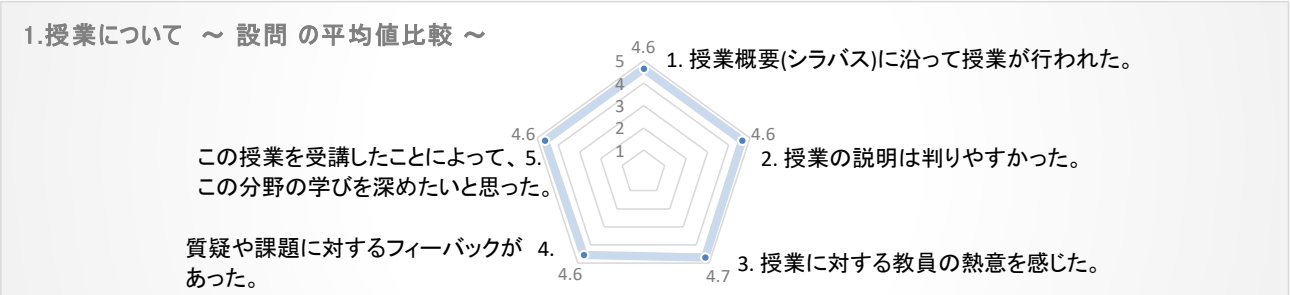


科目コード: 0202　　科目名 海外研修　　回答者数: 68 名

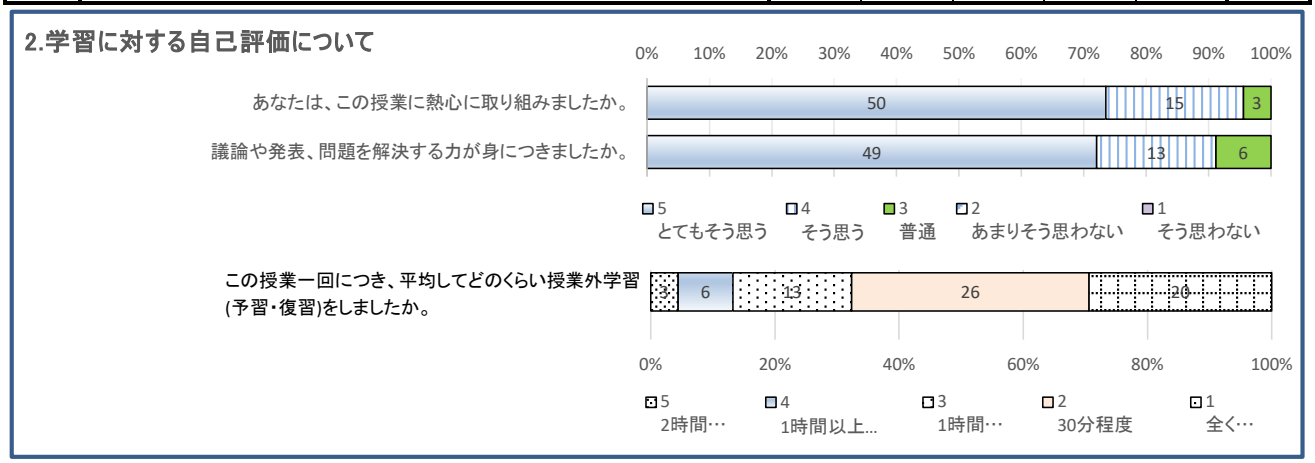
学科・学年: 2年生 授業形態: 演習　　担当者 大野博之(他)

設問Ⅰ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	授業概要(シラバス)に沿って授業が行われた。	47	18	3	0	0	4.6
(2)	授業の説明は分かりやすかった。	47	17	4	0	0	4.6
(3)	授業に対する教員の熱意を感じた。	51	13	4	0	0	4.7
(4)	質疑や課題に対するフィードバックがあった。	47	13	7	1	0	4.6
(5)	この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った。	47	17	4	0	0	4.6

総平均	4.6



設問Ⅱ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	あなたは、この授業に熱心に取り組みましたか。	50	15	3	0	0	4.7
(2)	議論や発表、問題を解決する力が身につきましたか。	49	13	6	0	0	4.6
	項目	5 2時間以上	4 1時間以上2時間未満	3 1時間未満	2 30分程度	1 全くしていない	平均
(3)	この授業1回につき、平均してどのくらい授業時間外学習(予習・復習)をしましたか。	3	6	13	26	20	2.2



アンケートに対する教員所見

①現状(アンケート結果に対する考察)

オーストラリア・仙台・横浜の3か所の研修コース、全10コマ開催とし、授業運営は、各担当(引率)教員に任せる形となった。オーストラリアを選択した学生は、12名・仙台54名・横浜10名と、履修者数の差はあったものの、全体を通しての評価は、総平均が4.6と、非常に高かったと感じている。また、これに関連して、「授業に対する教員の熱意を感じた」では、総平均が4.7と、高い評価を受けていることや、自由記述などでも「たくさんの学びがあった」などの記述が多いことから、総合的に学生の満足度は高いように思う。この要因は、2つ考えられる。1つ目は、コロナ禍後の今年度は、オーストラリア研修が復活したこともあり、各コースにおいて授業時間以外でも、準備等に多くの時間を設け、その分、教員と関わる時間や機会が多かったことなどが影響し、その結果、教員と学生との信頼関係が構築され、相談などもしやすい環境にあったのではないかと考えている。2つ目として、3コースそれぞれの研修出発日をずらしたことで、特に仙台は中高の修学旅行と被らないような調整もでき、その結果、観光地の見学などの混雑も避けられ、また、研修費用についても低コストに抑えられたことなども十分影響していると考えている。

②課題と展望(授業改善方策)

1.成果報告会においては、学生主体の発表会、及び、「ナラティブ・プレゼンテーション」を意識した発表ができるよう学生指導を行う。

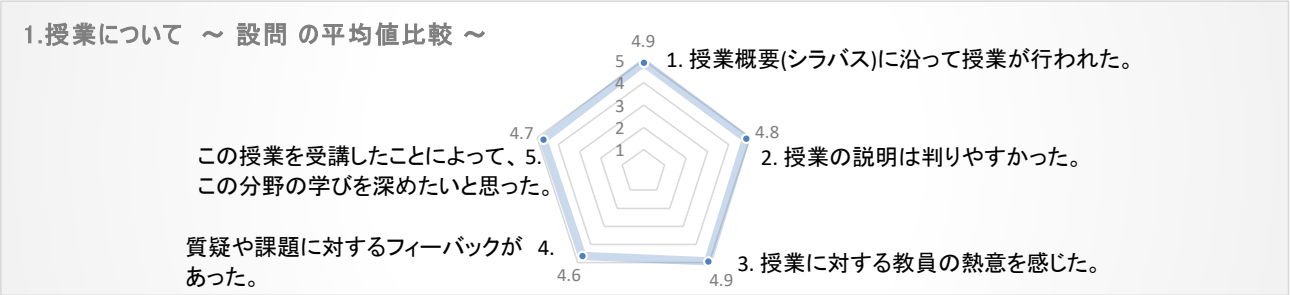
2.研修地を増やすことも視野に入れる。特に海外。

3.アンケート89%以上と高い回答率であったが、次年度は100%の回答率を目指す。

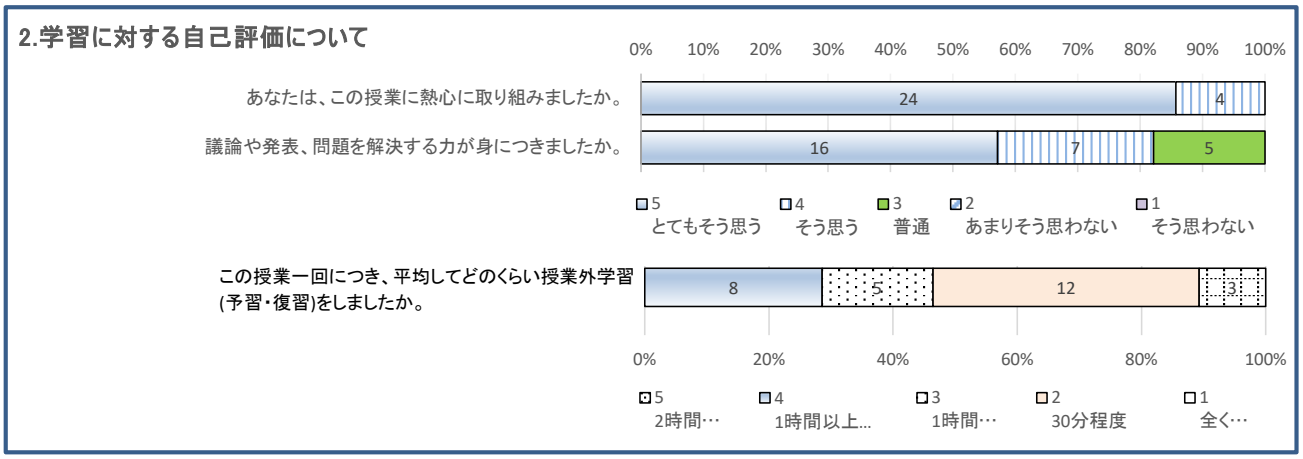
科目コード: 0201　　科目名 埼玉学　　回答者数: 28 名

学科・学年: 2年生 授業形態: 講義　　担当者 武内道郎

設問Ⅰ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	授業概要(シラバス)に沿って授業が行われた。	25	3	0	0	0	4.9
(2)	授業の説明は分かりやすかった。	23	5	0	0	0	4.8
(3)	授業に対する教員の熱意を感じた。	26	2	0	0	0	4.9
(4)	質疑や課題に対するフィードバックがあった。	20	6	2	0	0	4.6
(5)	この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った。	22	4	2	0	0	4.7
					総平均		4.8



設問Ⅱ	項目	5 とてもそう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	平均
(1)	あなたは、この授業に熱心に取り組みましたか。	24	4	0	0	0	4.9
(2)	議論や発表、問題を解決する力が身につきましたか。	16	7	5	0	0	4.4
	項目	5 2時間以上	4 1時間以上2時間未満	3 1時間未満	2 30分程度	1 全くしていない	平均
(3)	この授業1回につき、平均してどのくらい授業時間外学習(予習・復習)をしましたか。	0	8	5	12	3	2.6



アンケートに対する教員所見

①現状(アンケート結果に対する考察)

29名の両学科の2年生が履修したが、委託訓練生の必修としたため、20名が訓練生。様々な年齢、経験を経た方々が多く、過去数年と比べて非常に授業への興味関心が高かった。金曜日5限目の講座で、疲れている時間帯ではあるが、学生とのやり取りも面白く、充実した講座となった。シラバスに基づき、毎回テーマを決め、盛りだくさんの埼玉に関する資料を提供した。地元への誇りや郷土愛が少ない埼玉県の県民性は何が原因なのか、等、学生に考えさせる場面も設けたが、深まりに欠けた。伝えたい内容が多く、やや盛りだくさんになり、また、逆に時間が足らず伝えられないことも多かった。15回欲しいという学生の意見も多かった。毎回、「誰かに話したくなる埼玉のミニ知識」をレポートに記載させたが、中にはいろいろ記述する者もあり、授業で取り上げ、全体の前で情報共有した。8回授業のプリントが埼玉学のテキストになるよう、A3両面の資料は、保存に耐えるものとした。

②課題と展望(授業改善方策)

渋沢栄一の1万円札など、何かと話題になっている埼玉県であるが、県民性はやや自虐傾向にあり、県民愛に乏しいと感じている。学生に親しみやすい漫画や映画、観光、食などの話題を大量に盛り込んで、毎回A3両面の資料を配布し、動画も含めたパワーポイントの資料も充実させた。最終的にテストを実施せず、代わりに自分の出身市町について調べてまとめさせた。膨大な資料を伴った労作も多く、私自身も新たに知ることが多かった。数人に発表させたことで、自分の地元の良さを改めて知るきっかけとなったと思う。なるべく楽しい話題をと考えたが、私との年齢差、学生間の経験や年齢の差もあり、全員にとってタイムリーな内容、興味を引く内容となっていなかったかもしれない。また、仕方ない部分はあるが、金曜5限目は、直前の4限目授業がなく、待機している学生もいた。